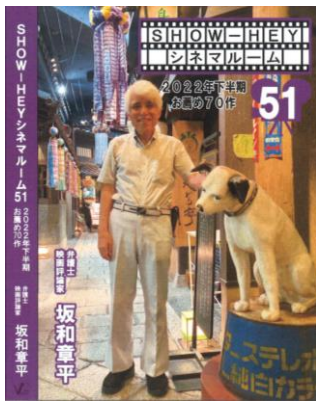




2022(令和4)年11月30日撮影
細谷優子 永田ひとみ
坂和章平弁護士

シネマルーム最新刊!



最新刊!『シネマ51』
2022年12月出版
定価1,100円(税込み)

◆ 業務時間・アクセス ◆

平日 午前9時～午後6時 土日祝は休業

【地下鉄堺筋線・谷町線「南森町駅」から】

2番出口を出て左へ(西へ)。阪神高速の高架に向かって進む。高架をくぐったところになにわ北府税事務所があるので、その手前で左に曲がり、高架沿いに直進(南下)。1つ目の信号(西尾倉庫・みなみの森保育園の手前)で右に曲がると、右手に西天満郵便局がある。その3軒西隣が西天満コートビルです。



【地下鉄堺筋線・京阪「北浜駅」から】

26番出口を出てすぐの難波橋を渡る。2つ目の信号(Y字路の交差点「西天満1東」)を横断せずに右へ進むと阪神高速の高架があるので、その手前の信号「菅原町西」で堺筋を北へ横断。高架沿いに直進(北上)し、2つ目の信号(左手に西尾倉庫・みなみの森保育園の看板)で左に曲がると、右手に西天満郵便局がある。その3軒西隣が西天満コートビルです。

新年あけましておめでとうございます。

第1 ウクライナ情勢(戦争)の展開は?

1) 2022年2/24のロシアによるウクライナ侵攻から9か月を経た今、ロシアの劣勢、ウクライナの反転攻勢という局面を迎えている。他方、電力をはじめとするウクライナの主要インフラへのミサイル攻撃は激烈を極め、“冬将軍”の到来を前に膠着状態。長期戦になる可能性もある。冬季を迎えて予想される、ウクライナ東部と南部の、ふ厚い氷に覆われた大地での地上戦の展開は如何に?
2) 食料不足はもとより電力不足、断水、通信遮断等、市民生活全般への影響は甚大だが、ゼレンスキー大統領夫人は、11/27の英BBC放送のインタビューで「私たちは耐え抜く準備ができています」と述べ、戦争に勝つことは「普通の生活に戻ることを意味する」と訴えた。
3) NATO(北大西洋条約機構)は、11月末の外相会議で、「プーチンは“冬”を兵器化し、ウクライナを凍えさせようとしている」と述べ、電力網の回復や防寒着、発電器、変圧器等の提供を確約。また、新たな防空システムの供与と弾薬や回収部品の供給を急ぐ、とした。
4) TVのニュース番組では、小泉悠、廣瀬陽子、東野篤子、山添博史、畔蒜泰助、小谷哲男等々、ロシアや米国、そして軍事関連の専門家が連日ウクライナ情勢(戦争)の現状を解説しているが、一体どれほどの日本人がそれを聞き、考えているのだろうか?後述の安全保障関連三文書の改定問題を巡っては、米国の巡航ミサイル「トマホーク」の購入や潜水艦発射型長射程ミサイルの導入等が報じられているが、「反撃能力」「敵基地攻撃能力」「継戦能力」等の近時のキーワードと共に、これらは漫画の話ではなく、現実の話だ。日本からの武器や武器弾薬の支給や軍隊の派遣は憲法上不可能だが、防寒具等の支給は可能だ。
5) 愛媛県松山市で1949年に生まれた私は、母親から空襲警報で防空壕に逃げ込む話を子供心に聞いたが、平和が77年間も続いている今の日本は明らかに平和ボケ!今のウクライナの姿は明日の台湾の姿かも!もし、そうなれば日本は?せめて年末年始ぐらいは、ウクライナ情勢(戦争)の現実を対岸の火事とせ

ず、自分の生き方や日本のあり方と連動させて、想像たくましく考えたい。

第2 米国の中間選挙は?大統領選挙は?

1) 4年に一度の大統領選挙の合間に行われる上下院の中間選挙は政権与党に不利な結果になるのが常。2022年11/8に投開票された中間選挙は、議会占拠事件の後遺症を抱えているものの、共和党をほとんどトランプ党と化してしまつたトランプ前大統領の推薦する候補者が“赤い波”を巻き起こして圧勝!下院はもとより上院でも政権交代が!すると、ウクライナ戦争の影響とはいえ、急激な物価高騰に有効な政策を打てていないバイデン民主党政権は苦境に!それが大方の予想だった。
2) 開票速報では、共和党の躍進、トランプ推薦議員の相次ぐ当選が伝えられたが、6つの激戦州での意外な接戦が報じられていく中、次第に「投票日直前の、トランプの次期大統領選出馬表明が失敗だった」との説が大勢を占めていくことに。その結果、“赤い波”は起こらず、下院は共和党が過半数の218議席を超えたものの、上院では民主党が過半数をキープしたうえで、ジョージア州では12/6の再投票も決定している。さあ、“ねじれ現象”となった米国の新しい政権運営は如何に?
3) 私は2016年11月のトランプVSヒラリーの大統領選挙を胃がんの手術直後のベッドの上で見ていたが、あの時ほど、日本のマスコミの取材能力の欠如と、いわゆる専門家・識者の頼りなさを痛感したことはない。それと同時に、少数派(孤立派)ながら、トランプ勝利を予言し続けた木村太郎、古森義久両氏の慧眼に感服したものだ。しかし、この2人とも中間選挙の予想は大はずれ!すると、2024年の大統領選挙の予想は?
4) 大統領が俺だったらロシアのウクライナ侵攻はなかった!これはトランプの勝手な言い分だが、「金正恩はいい奴だ!」「習近平とはウマが合う!」と公言していた彼なら、ひょっとして?良くも悪くも彼の政治家としての個性は際立っていたが、意外だったのは、いち早く首脳会談を実現させた安倍晋三元総理と波長が合ったこと。2006年に訪米した小泉純一郎元首相がプシユ(息子)大統領の

別荘で、プレスリーを真似て楽しむ中で交流を深め、日米の絆を強化したことは有名だが、トランプ・安倍の信頼関係はそれ以上だった。
5) 78歳という史上最高年齢で就任したバイデン大統領の存在感は当初から薄かった。コロナ禍での彼のワクチン対策ははっきり言って誰でもできたこと。米中関係でトランプ路線を継承したのはい立派だし、アジア太平洋方面の重視、とりわけ台湾への支援も立派だが、あと2年間、本当に激務をこなせるの?他方、トランプ氏は意気軒昂だが、共和党内での大統領候補の指名争いは迷走中。民主党も、トランプ出馬なら80歳の誕生日を迎えたバイデンがやる気満々。2年後には78歳VS82歳の超高齢対決にも現実味が!

第3 ヨーロッパ各国の選挙は?

1) 歴史上のIfは無意味だが、もしロシアのリーダーがプーチンではなくゴルバチョフだったら?第2次世界大戦の終結は喜ばしいが、その後起きた東西冷戦は、フルシチョフVSケネディが対峙した1962年のキューバ危機の中、全面的核戦争の危機まで生んだ。東西冷戦は1989年11月のベルリンの壁崩壊で一気に転換したが、ソ連最後の指導者としてペレストロイカやグラスノスチ(情報公開)を唱え、東西冷戦を終結に導いたのがゴルバチョフ元大統領だ。そんな偉人が昨年8/30に91歳で死去したが、もし今のロシアのリーダーが彼だったら・・・?
2) ロシアも中国も北朝鮮も個人独裁体制が続いているが、西欧民主主義国ではリーダー選びはすべて選挙。私は個人独裁よりは選挙の方がベターだと思っているが、ヒトラーも第1次世界大戦後の疲弊したドイツの現状を憂える中で、画家から政治家へと転身し、国家社会主義ドイツ労働者党(ナチス党)のリーダーとして選挙で政権を握ったことは、しっかりと頭に入れておく必要がある。そんなドイツでは、16年間も首相を務めたメルケルに代わって、2021年からはショルツが首相に就任。ドイツはG7でもNATOでもフランスに並ぶ大国だが、経済面、貿易面で中国を重視したメルケルとの違いを印象づけるべく、彼は就任後初のアジア訪問国を日本とし、連合合

意では中国を「体制上の競争相手」と明記した。ところが、共産党大会の直後、G7の先陣を切って中国を訪問した際は、「経済デカップリング（切り離し）はよくない。中国とはビジネスを続ける」とする立場で、首脳会談に臨んでいた。さて彼の真意は？

3) 米国との固い同盟を誇る英国のEU(欧州連合)からの離脱(ブレグジット・20年2月)には驚いたが、それを指導したのがメイ首相。しかし、離脱協定案の議会承認を果たせなかったメイ退陣後、離脱強硬派として頑張ったのがジョンソン前首相だ。彼のざっくばらんな人柄は魅力的だったが、コロナ禍でのパーティーゲート騒動の中でやむなく退陣。ジョンソン後継を選ぶ保守党の党首選挙は8名が立候補し、5回の議員投票と最後の党員投票によってトラス氏が選出。崩御2日前のエルザベス2世がその任命式を行った。しかし、彼女の法人税率引き上げ凍結などの減税政策は市場の不自信感を招き、ポンド下落、株安、国債の暴落という経済と市場の混乱を収束できず、就任後わずか44日間で辞任。その後、ジョンソン政権の財務省だったリン・スナクが無投票で党首に選出され、首相に就任した。彼は就任後初の演説で「10~16年のキャメロン政権期の“英中蜜月”の黄金時代は終わった」と断言し、「米日の“同志国”と連携して中国に対抗する」と強調した。日本が日露戦争に勝利できたのは、強固な日英同盟のお陰。大きな混乱の下で生まれた英国史上初のインド系首相の手腕に注目したい。

4) フランスでは、アラン・ドロンぱり(?)のハンサム男、マクロンが17年から首相を務めており、それなりの存在感を見せている。他方、短期政権が多いため首相の名前が誰一人浮かんでこないイタリアでは、ついに22年10月、極右政権が誕生した。それは「イタリアの同胞」を9月の総選挙で勝利に導いた女性党首ジョルジャ・メローニ(45歳)。15歳の時に旧ファシスト党の残党が作った極右政党に参加し、21歳で地方議員に当選したのが彼女の政界入りの第一歩。総選挙直前の支持者集会はコンサートのような熱気で、ブロンドの髪をなびかせながら一人で舞台を駆け回り、「不法移民を止めろ!」と絶叫したそう。

フランスでも22年6月の下院選挙で国民連合が最大野党になったが、その議員団を率いる代表はマリヌ・ルペン(54歳)。初代党首の三女として、幼少時代から「極右の娘」と呼ばれていた彼女は、大学を出て弁護士になったものの、居場所はやはり政界。2代目党首になると反ユダヤ発言を繰り返す父親を執行部から追放し、党の看板を「反移民」にして支持層を広げたそう。そんな2人の女性の生い立ちと個性は際立っているからいずれ映画化されるかもしれないが、“ファシズムの復活か!”と書き立てられたメローニ首相の誕生をあなたはどう考える? NATO(北大西洋条約機構)を軸とした西側の結束を主張し、親中国姿勢からの脱却を掲げている彼女が、就任後、台湾支持を明言したことに対し、中国は「台湾問題の高度な感受性を十分に認識するよう促す」と釘を刺し、「新政権が引き続き肯定的、実務的な対中政策を堅持するよう望む」と強調したが、さて、彼女の真の手腕は?

5) ブラジルでは、10/30の選挙で左派のルラ元大統領が勝利した。中南米では18年のメキシコ、19年のアルゼンチン、20年のポリビア、21年のペルー、22年のホンジュラス、チリ、コロンビアと、左派候補が右派の現職に勝利する例が相次いでいる。その原因は色々あるが、なぜ西諸国では右派が台頭しているの? トランプ前大統領が主導した一国主義、移民排斥主義がその一因だが、これらの選挙の問題点はしっかり突き詰めて考えたい。

第4 中国に“白紙革命”が勃発!

1) 5年に一度の共産党大会は中国最大の行事。10月に開催された第20回大会では、2012年から2期10年間続いた習近平国家主席が予

想どおり3期目に就任。これも異例だが、No.2の常務委員(チャイナセブン)として、またリコノミクス等の経済政策で中国を牽引してきた李克強首相が中央委員にすら選出されず、常務委員がすべて習氏の側近で固められたことには全世界がビックリ! 毛沢東以来の個人崇拜色を強めてきた習氏は、選挙の度に指導者が入れ替わる西欧型民主主義に対する個人独裁・専制政治の優越性を唱えてきた。そして、3期目就任後初の外遊となった11月のG20やAPECでは、米中、日中、韓中をはじめとする多くの首脳会談を微笑みの中でこなしてきた。しかし、不動産大手、恒大の経営破綻等、中国の経済は変調をきたしている。

2) そんな中国では、今、“白紙革命”が勃発! そのきっかけは、11/24に新疆ウイグル自治区ウルムチ市で起きた火災の犠牲者を追悼する集会。火災のあった高層住宅周辺がコロナ対策で封鎖され、救助が遅れたという見方がネット中心に広がり、デモが行われると、それに連帯を示す形でデモは他都市にも広がった。

3) 最初のゼロコロナ政策は武漢での都市封鎖。その悲惨な実態は驚きをもって全世界に発信された。西諸国がウィズコロナを目指す中では習政権はゼロコロナ政策を貫いたが、上海でも北京でも都市封鎖が実施されると? それで長期化すると? それでも感染者が増え続けてくると? 1989年の天安門事件当時は、当局による情報の管理統制が容易だったが、SNS時代の今、情報はあっという間に広がるから取り締まる側は大変だ。サッカーW杯で熱狂した声援を送る観客の顔にマスクはあるの? なぜ俺たちは毎日PCR検査を? 1人でも感染の疑いが出ると、問答無用でマンションが封鎖されるのはなぜ? 食料や水は? 病人が出たらどうなるの? 中国14億の人民がそんな不安を持ち、当局に不満を持ったのは当然だ。

4) 共産党大会直前の北京での「PCR検査は不要。ごはんが欲しい」「都市封鎖、管理は不要。自由が欲しい」と大書された横断幕の登場が驚きなら、上海や北京にまで広がったデモの中での、「共産党退陣! 習近平退陣! 独裁不要!」等のスローガンも驚き! 国内でそんなことを叫べば即逮捕だが、中国では、上に政策あれば、下に対策あり。白紙の紙を持っているだけなら政府批判ではない。そんな工夫(?)から急速に“白紙革命”が広がっている。これは台湾の雨傘運動や香港のひまわり学生運動のような民主化を求める政治運動ではなく、市民の生活に直結する切実な問題だけに、逆に大きなうねりとなれば、ひょっとして?

5) そんな激動の中、11/30 江沢民元国家主席が、96歳で死去した。彼の後を継いだ胡錦濤の後継者に習近平を指名したのが江沢民だが、上海閩の重鎮だった彼の死去は一層習近平独裁色を強めることになるだろう。12年の18回大会、17年の19回大会を報ずる人民日報では、習氏以外の幹部の顔写真も載っていたが、第20回大会は習氏の顔写真のみで、他の6人は“その他大勢”の扱いに。私が毎日観ている中国のTV歴史ドラマでは、皇帝にすべての権力が集中し、大臣たちはすべて実務処理部隊だが、今はそれと全く同じだ。選挙の度に指導者がコロコロ変わる西欧型民主主義VS皇帝一人が死ぬまですべてを決める中国式専制政治。そのどちらが良いかはさておき、習氏がプーチン大統領と同じ過ちを犯さないことを祈らずにはいられない。

第5 岸田政権は? 三文書改定は?

1) 2021年9月の総選挙での私のイチオシは高市早苗だったが、結果は大方の予想どおり、岸田文雄が当選。22年7月の参議院選挙の勝利によって、“黄金の3年”を手に入れた。しかし、①G7の外相会議(11/3・4ドイツ)、②G20のサミット(11/15・16パリ)、③APECの首脳会談(11/18・19バンコク)でも、さらに3年ぶりに実現した11/17の日中首脳会議でも、岸田首相はその存在感を十分に発揮で

きなかった。G7の並み居る面々の中でも圧倒的存在感を示してきた安倍元首相とは大違いだ。私は岸田首相のそもそもの能力(器量)に疑問を持っているが、今や“黄金の3年”をムダに費やしてしまう危険性が日に日に拡大!

2) 7/8の安倍晋三元首相の銃殺事件以降、旧統一教会問題が急浮上! 自民党議員との接点が大問題になる中で、閣僚の不祥事も判明し、山際大志郎経済再生担当大臣、葉梨康弘法務大臣、寺田稔総務大臣の3名が辞任(更迭)。現在は、秋葉賢也復興大臣が4人目になるか否かが焦点だ。12/10に会期末を迎える終盤国会のテーマは、第2次補正予算と旧統一教会の被害者救済法案の成否。今国会は何か乗り切れるだろうか、今や支持率が最低になっている岸田政権の行方は如何に? もし彼が短命政権で終わるなら、私は次期総理として高市早苗の登場を期待!

3) ヨーロッパで起きたロシアによるウクライナ侵攻は、アジア太平洋方面に大きな波及効果を生んだ。その第1は、これまで抽象論だった“台湾有事”がより現実味を増したこと。第2は、“台湾有事は日本有事とみなす”とのバイデン発言を受けて、日本の安全保障への関心と取組が現実化したことだ。その最新かつ最重要の論点が、安全保障関連三文書の改定と防衛費の大幅増額問題。そうは言っても、団塊世代の爺さんを含めて多くの日本人は、それを知らないだろう。

4) そもそも上記の三文書とは何? それは、①「国家安全保障戦略」(H25.12.17閣議決定)、②「平成31年度以降に係る防衛計画の大綱」(H30.12.18閣議決定)、③「中期防衛力整備計画(平成31年度~平成35年度)」(H30.12.18閣議決定)の3つ。①は「国防の基本方針について」(S32.5.20国防会議及び閣議決定)に代わるもの。①も②もおおむね10年程度の期間を念頭に置いたもので、NSC(国家安全保障会議)において、定期的に体系的な評価をしていく重要文書だ。③は「中期防」と呼ばれるとおり、5年間の短期計画で、3年毎の必要な見直しが見込まれている。それぞれ印刷すると数十頁にわたる膨大なものだ。

5) その改定問題を論ずる前に第1に押さえておくべきは、安倍政権下で2015年に実現した平和安全法制。それは、自衛隊法の改正等、計10本の法律から成る複雑かつ膨大なものだが、核心は、①周辺事態安全確保法を改正した重要影響事態安全確保法と②事態対処法の2本にある。第2は、9/16に基本方針を定め、10/12に安保重要区域58か所を提示した、重要土地規制法の意義(3頁参照)。いずれもしっかり勉強が必要なものばかりだ。

6) 三文書改定のために設置された「国力としての防衛力を総合的に考える有識者会議」は、9/30から4回の会合を経て、11/22に報告書を公表。それに基づき終盤国会で議論されているが、三文書改定問題は憲法改正にも匹敵する難問だから、根本的に勉強し、長時間をかけて議論することが不可欠。目下、私はそれを懸命にやっているが、日本のマスコミは旧統一教会との接点や大臣の失言問題等の安易なテーマの追っただけ。その根本的姿勢の転換が不可欠だ。

7) 防衛費をGDP比2%に増額せよ! これは三文書改定問題より前に、NATO諸国の実態が強調される中で、急浮上してきた議論。GDP比2%に格別の意味があるわけではないが、トマホークを買うためにも金が必要。また、継戦能力を言うのなら、先立つものが不可欠だ。それを増税で賄うか国債で賄うかは選択の問題だが、日本の平和と安全のために、そして抑止力、反撃能力、継戦能力のために、防衛費の大幅増額が不可欠なことは明白だ。平和ボケしてしまった日本人は、今こそそんな現実を考える必要があるはずだ。

2023(令和5)年元旦(2022年12月2日記)
坂和総合法律事務所
所長 弁護士 坂和 章平

第1 弁護士業務＝ライフスタイルの変化とその確立

1) 1974年4月の弁護士登録から48年。ここ10年は弁護士としてのライフスタイルの変化が顕著だが、今やその変化が確立しつつある。午前中の弁論、和解、証人尋問、さらに昼食後の弁論、証人尋問、和解。毎日裁判所に通い、多くの法廷を掛け回す生活をしてきたそんな私の弁護士としてのライフスタイルは既に終わっている。今年は1件、中国人の友人からの依頼事件が完全解決し、もう1件、親戚からの依頼事件が部分解決したが、それを処理したのはすべて息子の坂和宏展弁護士。私は報告を聞き、指示をしただけだ。

2) ここ数年の私の生活は、午前中1km40分間の水泳を含む、帝国ホテルのフィットネスクラブへのサウナ通い。その所要時間は約2時間。顧問会社の監査役として取締役会に出席するための月1回の東京行きが約15年間続いたが、2021年6月の株主総会後はなくなったから、今は原則的にサウナに入らない日はない。その上、日曜日の午前中は60分の全身マッサージと60分の足ツボマッサージが定着したから、日曜日も帝国での水泳とサウナはそれまでに済ませる生活が定着している。2015年9月の大腸がん手術、2016年11月の胃がん手術の試練を受けたが、何とかそれを克服することができた。

3) 弁護士としての事件数はMAX時は年間300件を超えていたが、今や数件に激減。収入もそれに正比例して2桁減だ。しかし、2001年からは、自社ビルでの業務だから家賃負担はなく、逆に家賃収入がある。事務員も古株の2人プラス、パソコン要員のバイトだけだから、人件費は激減。北新地での飲み代も高級料理店での飲食代もほぼゼロだから、経営は低空飛行ながら安定している。「依頼者獲得のノウハウ教えます」をウリにしたネットの助けは不要だ。

4) 2023年1/26には満74歳。その1年後には記念すべき弁護士50周年を迎えることになる。それを楽しみに弁護士としてのライフスタイルの変化と確立をしっかりと楽しみたい。

第2 執筆活動全般

1) 法廷通いが無くなった反面、増大しているのが執筆活動。『シネマルーム』の出版は記念すべき50冊を終えたが、なお意欲は衰えず、今後も継続する予定。もっともそれはあくまで“2足めのわらじ”。私の本業はあくまで弁護士だから、そのメインは今や各種法律書の執筆活動になっている。

2) 私が1980年代に弁護士としてのライフワークを都市問題に設定したのはクリーンヒットだった。安倍晋三首相の銃殺事件を契機に旧統一教会問題が急浮上し、その方面での活躍を続けてきた弁護士が連日TV出演しているが、これはたまたま。それに対して、都市問題は60年代の近代都市法の確立以降、ずっと深化し続けているテーマだから面白い。

3) 五十嵐敬喜弁護士主催の「現代総有研究所」はメッチャ難しい最先端の議論だが、①都市再生特別措置法に基づく特定都市再生緊急整備地域における大型再開発、国家戦略特区法における大型再開発、都市再開発法に基づく再開発、②老朽化するマンション問題、③高齢化に伴う所有者不明土地対策特措法等の土地問題、④近い将来の来襲が確実視されている、首都直下地震、南海トラフ地震等の大地震対策に対する法的対策、⑤近時多発する水害、土砂災害への法的対策、等々、都市問題のテーマは広がっている。それに伴って法律も毎年大量生産されているが、さてその理解は？

第3 執筆活動(1)『盛土規制法の解説』(仮称)を出版!

1) 安倍晋三政権下で2015年に成立した、いわゆる平和安全法制は大切なテーマだが、その法律書、解説書はほとんどない。それは、同法制があまりに膨大な体系であるうえ、その解説者、執筆者がほとんどいないためだ。それと同じように、2021年7月の豪雨によって熱海市伊豆山地区で発生した大規模土石流災害を契機として、2021年5月に成立した「宅地造成等規制法の一部を改正する法律」の解説書もない。

2) 昭和43年～44年の近代都市法の成立に先立って、昭和36年に成立した宅地造成等規制法は、宅地造成規制区域を定

め、同区域内での工事等を知事の許可に係らしめた重要な法律。田中角栄元首相が主導した新全国総合開発計画(新全総)や日本列島改造論に基づく宅地の乱開発を規制する重要な都市法で、都市計画法29条が定める開発許可の前身とも言うべきものだ。しかし、信山社の重要法令シリーズ『盛土規制法改正法—宅地造成等規制法の一部を改正する法律』を購入すると、その内容はネット情報ばかりだった。

3) そこで、「ならば俺が!」と思い立ち、奮起したのが昨年10月。それから1か月の間にすべての原稿を完成させたのが、『盛土規制法の解説』(仮称)だ。近々、民事法研究会で単行本で出版予定だから、乞うご期待!

第4 執筆活動(2)論文「重要土地規制法の意義と問題点」

1) 2022年9/16、「重要施設の施設機能及び国境離島等の離島機能を阻害する土地等の利用の防止に関する基本方針」が閣議決定され、10/11、「安保重要区域」58箇所の候補地が提示された(第1段指定)。これは、6/16に制定され、9/20に全面施行された「重要施設周辺及び国境離島等における土地等の利用状況の調査及び利用の規制等に関する法律」(重要土地規制法)に基づくものだ。

2) ロシアによるウクライナ侵攻を取り上げるまでもなく、北朝鮮による相次ぐミサイル発射や台湾問題等々を考えれば、「平和憲法さえあればノープロブレム」という時代は過去のもの。目下は安全保障関連三文書の年内の改定が最重要課題だが、その前に外国資本による自衛隊基地周辺などの土地購入に伴う安全保障上の懸念の払拭が不可欠だ。そんな問題意識で私は、民事法研究会発行の雑誌『市民と法』2月号に、論文「重要土地規制法の意義と問題点」を掲載することに。同法を巡っては、「そもそも立法事実が存しない」とする反対意見も強く、国会では17本もの附帯決議も付されている。同法の勉強は大変だが、しっかり自分のものとしたうえで論文を完成させ、坂和流の問題提起をしたい。

第5 執筆活動(3)『判例秘書ジャーナル』への寄稿

1) 2022年10月に判例評釈の依頼があった。テーマは、「マンション建替事業の施行者がマンションの建替え等の円滑化に関する法律76条3項に基づく補償金の供託義務を負う場合において、上記補償金の支払請求権に対する差押えの競合が生じたときは、上記施行者は同項及び民事執行法156条2項を根拠法条とする混合供託をしなければならない」と判示した取立金請求事件(最判第一小法廷・R4.10.6)の評論。

2) これは、近時老朽マンションの建替え事業が急増している状況下で発生した複雑・難解な法律問題で、一審、二審、最高裁までもつれた珍しい事例だ。これは私が共著で出版した『注解 マンション建替え円滑化法』(青林書院・03年)を見ての依頼だから、出版の威力はすごい!映画鑑賞と映画評論も面白いが、こんな弁護士冥利につきる仕事(執筆)も私は大好き。今後は、その方面の業務も拡大したい。

第6 執筆活動(4)新日本法規出版の加除本

1) 『問答式 土地区画整理の法律実務』は、7月にリモートで編集会議をし、8月に「無電化を行う際の関係者間の合意形成における留意点」等の新設2問と補正19問の原稿を執筆し、10月に追録54・55号が発行された。

2) 『わかりやすい都市計画法の手引』は、9月～10月、序章第2節に改正盛土規制法についての加筆、現在の情勢に合わせた補正等をするともに、各条に参考判例を追加をした。追録52号～の発行は、1月、2月の予定。

3) 『Q&A 災害をめぐる法律と税務』は、改正盛土規制法関連を中心に新設6問を執筆し、補正26問の加筆・修正をした。追録67～70号が11月、12月に発行された。

第7 執筆活動(5)『シネマ51』【5頁・写真⑧】

節目となる『シネマ50』で打ち止めにする考えもあったが、元気なうちは続けることを決意。毎回苦勞する『シネマ51』の表紙は、株主になってからずっと通っている、シネ・リーブル梅田が3Fと4Fにある梅田スカイビルの地下街で決まり!昭和を思い出す風情はいつ見ても懐かしい。表紙のビクターの“ニッパー君”にも注目!



【写真①】 7/18
「民族共生象徴空間ウポポイ」と
その中にある「国立アイヌ民族博物館」を見学



【写真⑤】 8/30 ドリアン試食！



【写真②】 7/19・20 苫小牧でゴルフ



【写真⑥】 7/15
大阪梅田ツインタワーズ・
サウスを見学



外観写真



建替前



【写真③】 8/4
帝国ホテル大阪・中国料理ジャスミンガーデン
にて会食



御堂筋の東西の側道2車線の歩道化が、一部分ながら、
ミナミの方で現実のものになりつつある。
既に道頓堀付近は工事がかなり進んでおり、その全貌が
ハッキリわかる。こりゃ素晴らしい。

【写真⑦】 10/19



【写真④】 8/13
伊藤日実子さん主催の「日中茶龍」を開催



【写真⑧】 8/3

梅田スカイビルの滝見小路にて『シネマ51』の表紙撮影



【写真⑨】 11/15

愛光関西9期囲碁会・将棋会

シンフォニーホールの前で
久しぶりに家族3人が勢ぞろい

【写真⑩】 11/29

「2022 大阪・中国映画週間」開幕式・レセプション 11/11

【写真⑪】



耿忠さんの司会で、坂和も
薛劍大阪総領事、滝田洋二郎監督と対談



挨拶する総領事の薛劍さん



8名でのくす玉割りにも参加

トウ・クール・トウ・キル
这个杀手不太冷静 (2022)

監督: 邢文雄
脚本: 邢文雄
キャスト: 馬龍/魏翔/陳明昊/周大勇/黃才倫
ジャンル: コメディ
上映時間: 109分

上映時間
11月12日(土)16:50 11月15日(火)19:20

宇宙から来たモーツァルト
外太空的莫扎特 (2022)

監督: 陳思誠
脚本: 陳思誠/陳思宇/範軀華/全麗璇
唐紅漢/楊木子
キャスト: 黃渤/榮梓杉/姚晨/範偉/黃楊鈺甜
ジャンル: コメディ/SF/ファミリー 上映時間: 136分

上映時間
11月12日(土)19:20 11月17日(木)19:20

【写真⑫】 11/12

開幕式の翌日、2作品を鑑賞！非常有意思！

新型コロナウイルスワクチンの4回目、5回目接種！ インフルエンザのワクチンも2回接種！

- 1) 7/13、自衛隊大阪大規模接種会場（大阪市中央区今橋）で4回目のコロナワクチンの接種を完了。大阪市からの接種通知が届いたのですぐに申し込むと、即日接種可能とのこと。第7波が心配される中、会場はガラガラ。ホントにこれでもいい？第7波は収まったものの10月からは更に第8波が心配に。そんな中、11/9に5回目も接種を完了！もはや完全に手慣れた手続になってきた。
- 2) 同時流行が心配されるインフルエンザについても、10月と11月に2度にわたって近所のかかりつけ医で接種を完了。これにて完全！日本が中国のようなゼロコロナ政策の国でないことにあらためて感謝！

大阪梅田ツインタワーズ・サウスを見学（7/15） （4頁・写真⑥）

- 1) 7/15、関西Qの会主催で実施した、大阪梅田ツインタワーズ・サウスの現地見学会に参加。阪急・阪神統合の象徴であり、梅田1丁目1番地の開発計画である同事業は、2011年の都市再生特別措置法の改正によって具体化した。建築期間は8年、2022年4月にオープンした。阪神百貨店の規模はほぼ同じだが、オフィス床は大幅に増大した。
- 2) 12階にテナント用の施設として整備されたwellcoの見学も。あらためて都市計画を大きく越える、都市再生特別措置法の威力を実感！昔から「安くておいしい」として阪神百貨店の名物だった地下の食料品売り場は大きく拡大・充実され、美味しいものがいっぱい！こりゃ大阪人には嬉しい！

北海道の苫小牧へ出張（7/18～7/20） （4頁・写真①②）

- 1) 7/18、苫小牧へ出張に伴って、白老町にある「民族共生象徴空間ウポポイ」とその中にある「国立アイヌ民族博物館」を見学。三連休の最後の日、好天気の下、さまざまな施設を楽しんだが、国立の施設特有の“官僚臭”がブンブン。職員の数の多さにもビックリ！これでは維持管理に金がかかるはずだ。道東各地を旅行した際の温泉地を見たアイヌ民族の資料や踊りの方がほど温かみがあったことを痛感！
- 2) 7/19は北海道ゴルフ倶楽部で、7/20はドムクラシックゴルフクラブで連チャンゴルフ。九州をはじめ、西日本、東日本全体が大雨に苦しむ中、1日目は快晴、2日目は前後が大雨、プレイ中だけ快晴という奇跡の中で、今年二度目のゴルフを楽しむことができた。さらに1回だけ、ミスが少ないうえナイスショットが続き、ハーフ50という好スコアも出たから、大満足！

帝国ホテル大阪・中国料理ジャスミンガーデンにて会食（8/4）（4頁・写真③）

- 1) 2022年3月から中国に戻っていた合家（株）の史林麗さんと古婷婷さんが7月末、5か月ぶりに大阪に戻ってきたため、8/4の夕方、帝国ホテル大阪23階の中国料理ジャスミンガーデンで会食。
- 2) 米国のペロシ下院議長の台湾訪問で米中関係と台湾周辺に激震が走る中、有益な情報交換と楽しい交流を。

伊藤日実子さん主催の「日中茶龍」を開催 （8/13）（4頁・写真④）

- 1) 8/13夕方5:30～8:30、伊藤日実子さんの主催で、「日中茶龍」を2階の会議室にて開催した。これは、日中ビジネスを中心とする勉強グループ（サロン）で、東京を中心に約200名が参加している。参加者は、13名（日本人9名、中国人4名）で、大阪での開催は初めてだ。
- 2) 最初にビールとお茶で乾杯した後、弁当を食べながら、一通り自己紹介と自己アピールを。それに続いて、自然発生的に適宜2つ、3つのグループに分かれて、お互いに有意義な情報交換を続けた。学生の参加者が少なかったのが残念だが、今後も第2回、第3回と続け、かつ広げていきたい。

3) 「2022大阪・中国映画週間」で知り合った「freebird関西支部」の学生諸君もいろいろと調整した結果、12/15に事務所2階に集まることになった。伊藤日実子さんも参加する予定なので、学生たちとの新たな交流に期待！

ドリアンをはじめて試食！好吃！ （8/30）（4頁・写真⑤）

美味しいけど臭いことで有名な東南アジアのマレー半島原産の果物、ドリアンをあなたは知ってる？私は昔観た、フルーツ・チャン監督の『ドリアン ドリアン』（00年）でその存在を知ったが、8/30、史林麗さんと古婷婷さんがそれを持参してくれた。1個1万円弱もする高級果物の匂いはそれほどでもなく、味は最高！あなたも機会があれば是非！

「2022大阪中国映画週間」 開幕式&レセプションに参加！（5頁・写真⑪⑫）

- 1) 11/11、ウェスティンホテル大阪で中華人民共和国駐大阪総領事館主催、中国駐大阪観光代表処共催の「2022大阪・中国映画週間」が開催された。1980年代に世界に発信された、張藝謀監督の『紅いコーリャン』（87年）、陳凱歌監督の『黄色い大地』（84年）をはじめとする中国映画が日本に入ってきたのは、90年代。田中角栄と周恩来の握手に象徴される、1972年の日中国交正常化以降、日中の映画交流が進み、東京では2007年から中国映画週間が毎年開催されてきたが、大阪では今回が初開催だ。
- 2) 開幕式では、「中国国交正常化50周年記念 2022大阪・中国映画週間の記念映像」の上映（10分）と中華人民共和国駐大阪・総領事の薛劍さんの挨拶後、NPO法人日中映画祭実行委員会・理事長、耿忠さんの司会で、滝田洋二郎監督と共に私も登壇し、中国映画の魅力について対談した。また、壇上の8名でのくす玉割りにも参加した。そして、私の20年来的成果である『シネマールーム』5、17、34、44（中国映画特集1～4）等を大量に参加者に贈呈した。
- 3) 開幕式に続くレセプションでは、バンド演奏、民族舞踊、馬頭琴演奏、獅子舞などさまざまな催しの中、多くの人たちと懇親を広げ、深めることができた。
- 4) その後、7:30からの梅田の居酒屋で開催された滝田監督を中心とする非公式の食事会でも大いに語り合い、盛り上がった。来年の2回目の開催も期待したい。

愛光関西9期囲碁会・将棋会を開催（11/15） （5頁・写真⑨）

囲碁会の最大参加者は6名だが、将棋は村上と坂本の2人だけ。夏場はコロナの第7波襲来のため中止が続いたが、井上とは2人だけの囲碁会を続けてきた。11/15には井上と村上が参加し、囲碁会と将棋会を開催できた。12/20には忘年会を兼ねた大人数の囲碁会・将棋会を開催！

オービック・スペシャル・コンサート2022（11/29） （5頁・写真⑩）

- 1) ウィズコロナへの切り換えが進む中、3年ぶりに「オービック・スペシャル・コンサート」が復活！ドヴォルザークの交響第8番は馴染みのない楽曲だが、炎のコパケンこと小林研一郎氏自らマイクを握っての“ためになる楽曲解説”はありがたい。マエストロの温かい人柄が会場に伝わってきた。
- 2) このコンサートでは野田会長の愛唱歌「ふるさと」を会場一体で歌うのが定番だが、今回は感染防止のため、オーケストラと観客席のハミングで実施。美しいウクライナの都市が戦災にさらされている今、日本のふるさとを守るのは私たち日本国民の義務であることを再確認！来年の開催も期待！

映画評論家『SHOW-HEY』の部屋

～中華人民共和国駐大阪総領事館主催「私の好きな中国映画」作文コンクール 三等賞入賞

2022年は、1972年9月29日の田中角栄と周恩来の握手に象徴される日中国交正常化50周年の年。そこで中国駐大阪総領事館は、中日両国民の理解と信頼を促進するために、2月から「私の好きな中国映画」作文コンクールを開催した。

これは私にとって絶好のテーマだったうえ、1月8日に観た、賈玲(ジア・リン)監督の『こんにちは、私のお母さん(你好, 李焕英/Hi, Mom)』に大感激していた私は、これをネタに小学生以来の作文コンクールに挑戦! 400字5枚で完成させた作文はそれなりの力作、自信作になった。

そして、2022年8月16日、「文章の構成、表現の力、明確な主題、という3つの観点から、慎重かつ厳正な審査」を経た結果、見事、三等賞(一等賞1名、二等賞2名、三等賞3名)をゲット! 以下、その全文を紹介する。また、同作の評論は、『日本と中国』(2022年3月1日・No. 2262)の「中国映画を語る<60>」に掲載されているので、それもあわせて紹介する。

「タイムスリップもの」は面白い!

賈玲監督の『こんにちは、私のお母さん(你好, 李焕英)』に涙、涙、また涙!

◆中国には2つの顔がある。威風凛々な軍事大国・経済大国の顔と、笑顔がよく似合う、素朴で質素な庶民の顔だ。2022年2月4日に開幕した北京冬季五輪の開会式を演出した張藝謀(チャン・イーモウ)監督にも、「幸せ三部作」と呼ばれる、『あの子を探して(一個都不能少)』『初恋のきた道(我的父親母親)』『至福のとき(幸福時光)』の顔と、ハリウッド進出を狙った『HERO(英雄)』『LOVERS(十面埋伏)』等の2つの顔がある。緑色のレーザー光線の乱舞から始まった開会式を見て、これは今や最先端のAI能力、デジタル技術を誇る中国の国威発揚狙い! 一瞬そう思ったが、あれは多くの若者たちの長期にわたる訓練の成果だと知ってビックリ。米国は1776年の建国以来約250年の歴史しかないが、ハリウッド映画繁栄の歴史は長い。他方、「中国映画ここにあり!」を世界に知らしめた映画は、文化大革命の混乱後に再開された北京電影学院を82年に卒業した陳凱歌(チェン・カイコー)の『黄色い大地(黄土地)』と張藝謀(チャン・イーモウ)の『紅いコーリャン(紅高粱)』だから、わずか40年前だ。しかし、田中角栄と周恩来の握手に象徴される1972年の日中国交正常化以降少しずつ日本に輸入されていた中国映画は、この両作によって一気に注目を浴びることになった。そんな中国では近時『戦狼2』『長津湖』等の国威発揚戦争大作が大ヒットしているが、同時に『こんにちは、私のお母さん(你好, 李焕英)』がヒットし、賈玲(ジア・リン)は突然「世界最高の興行収入を獲得した女性監督」になってしまった。それは一体なぜ?

◆「タイムスリップもの」は自由な発想と奔放なストーリー構成が可能だから、娯楽映画向き。しかし、北京電影学院出身の英才が輩出される中国で珍しく「お笑い芸人」出身の賈玲(ジア・リン)の商業映画デビュー作は如何に? 母親にとって娘とは温かく柔らかな中綿入りの上着のような存在。娘に対するそんな誉め言葉がある中国では、太っちょで出来の悪い娘、賈曉玲(ジャ・シャオリン)でも母親の李煥英(リ・ホワンイン)は「健康に育てば十分」と考えていた。しかし、いくら母親を喜ばせるためとはいえ、一流大学への合格通知書を偽造するとは! 合格パーティーの場でそんな悪事が露見したからコトは最悪。母娘バトルの展開は如何に? そう思っていると、アレレ、「平凡で偉大なすべての母親に捧げる」をテーマにした本作は、監督自身の体験に沿って2001年から1981年に突然タイムスリップし、本格的物語がスタートする。

◆鄧小平が主導する80年代の改革開放政策が始まる中、81年の中国の工場では青い作業着と自転車がシンボル。労働者こそ中国人民の誇りだ! 若者たちの顔はそんな確信で輝いていた。日本人は『初恋のきた道』で見た、赤い服を着たお下げ髪の可憐な章子怡(チャン・ツイイー)が大好きだが、本作では若き日の母親(張小斐)の三つ編みの髪と白いブラウス、膝丈のタイトスカートに注目! 今度こそ母親孝行を。タイムスリップし、若き日の李煥英(リ・ホワンイン)に再会した曉玲(ジャオリン)はそう決心し、職場で真っ先にTVを買って、バレーボール大会で優勝するという目標を掲げて大奮闘! 1964年の東京五輪では「東洋の魔女」の大活躍に日本中が湧いたが、女子バレーは81年の中国でも大人気だった。職場の大会で活躍し工場長の息子と結婚できれば、玉の輿! そして、それが母親のベストの生き方! そう決めつけた曉玲(ジャオリン)は意外な底力を発揮していく。さすが「相声」出身の監督らしく、笑いの取り方も絶妙だ。

◆若き日の母に会えたら、あなたはどうしますか? 本作後半は、そんなテーマに沿った心温まる物語がストレートに続いていく。一見「チャップリン劇場」と見間違えようような「相声」も登場し、大笑いを誘うドタバタ模様も見せるが、その展開は如何に? 1949年生まれのは私は2022年1月に73歳になったが、父親は103歳までチョー長生きしたし、母親も90歳で天寿を全うしたから、2人ともこの世に未練はなかったはず。しかし、「親孝行したいときには親はなし」の諺通り、私の心の中には賈玲(ジア・リン)監督と全く同じ想い(悔い)がある。そのため、英会話を軸とし、三世代の母娘の情愛を綴ったNHKの朝ドラ『カムカムエヴリバディ』に涙していた私は、本作の脚本を書き、監督、主演した賈玲(ジア・リン)にいたく共鳴! ラストでは涙、涙、また涙状態に。

◆20歳前後の曉玲(ジャオリン)は2001年から1981年にタイムスリップし、20歳過ぎの母親に再会したが、私なら30歳代でバブル成長を続ける80年代の日本にタイムスリップしたい。そして、60歳前後の母親と再会し、曉玲(ジャオリン)と同じような、いやそれ以上の母親孝行を試みたい。コロナ禍で閉塞感が強まる現在の日本には魅力がないし、01年に始まった小泉改革以降少し持ち直しかけた日本の底力も尽き、低迷が続いている。しかし、80年代、昭和末期の日本はとにかく元気。土日、祝日も関係なく24時間働き、24時間遊んでいた。その当時の日本にタイムスリップし母親に会えたら、さあ私はどんな母親孝行をするのだろうか?

こんにちは、私のお母さん



2021 BEIJING JINGJI CULTURE & TOURISM CO., LTD. All rights reserved.

中国では『戦狼2』(17年)や『長津湖』(21年)等の戦争映画が大ヒットしているが、日本人が最も愛するそれは、徹底した純朴さで失った日本を思い出させる初恋のきた道(我的父親母親)(00年)や『山の郵便配達(那山 那人 那狗)』(99年)。おっとうや、中国全土を感動と涙に包んだ大催涙弾映画『幸せの絆(暖春)』(03年)もあるが、近時『こんにちは、私のお母さん(你好, 李煥英)』(21年)が歴代3位の興行収入9.4億を突破! NHKの朝ドラ『カムカムエヴリバディ』に、見る母と娘の情愛も興味深い! 太っちょで出来の悪い娘、賈曉玲(賈玲)は2001年に大好きな母親、李煥英(劉佳)を失った自分を責め、泣き崩れながら眠ってしまったが、目を覚ますと81年にタイムスリップ! 64年の東京五輪では「東洋の魔女」が大活躍したが、81年の中国でも女子バレーが大人気だ。文化大革命が終結し改革開放路線がまった工場では青い作業着と自転車が生

中国映画はやっぱり「大催涙弾」映画が最高! なぜ賈玲監督は「世界最高の興行収入の女性監督」に?

ンボルで、労働者こそまさに中国人民の誇り。三つ編みの髪に白いブラウス、ひざ丈のタイトスカートという可憐な姿で登場する若き日の母親(張小斐)に注目。今度こそ母親孝行! そう決心した曉玲は職場で一番にTVを買って、バレーボール大会で優勝する目標を掲げて大奮闘だが、その結果は? 若き日の母に会えたら、あなたはどうしますか? 北京電影学院出身の英才が輩出する中国で、相声(響)の「お笑い芸人」賈玲が自分の体験を元に脚本を書き監督した本作ではそのテーマがストレートに表現される。後半には本業の相も登場しドタバタ喜劇的な展開を見せるが、母親にとっ娘とは温かく柔らかな中綿入りの上着のような存在! 娘に対する善め言葉だが、なぜ私は81年にタイムスリップを? 今、煥英が工場長の息子と結婚してしまえば、お母さん(あなた)だった父親との間に生まれた自分の存在は? そんな状況下、ラストに向けての決断は? 「平凡で偉大なすべての母親に捧げる」という単純なテーマを築き、母親の語り口に涙する自分を再発見できれば、きっと新たな人生観が生まれるはずだ。

熱血弁護士 坂和章平



中国映画を語る(60)

映画を語る「シリーズ」をHPOJに所属する著者数(公社)日友好協会委員、NHK大阪府中友好協会理事 (さかかわ・しょうへい) 1949年愛媛県松山市生まれ、大阪大学法学部卒。都市開発に関わる訴訟を数多く手がけ、日本都市計画学会(石川憲)、同日本不動産学会(実務専任)を認賞。『坂和章平の中国映画大観』(2004年)『アノコのオヤジ』弁護士

『日本と中国』 2022年3月1日・No. 2262

<まちづくり本、法律書>



<実況中継シリーズ全4冊>



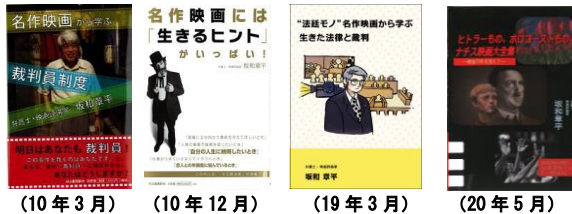
<その他の著書>



<コラム集>



<名作映画シリーズ>



<中国語の著書>



<『シネマルーム』シリーズ既刊全50巻>

